

平成30年度第1回学校評議員会報告

- 1 日 時 平成30年6月22日（金）15：10～16：00
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 <評議委員> 小中学校代表、学識経験者、PTA経験者、同窓生代表
<盛岡三高> 中島 新（校長）、鈴木 裕（副校長）、菊池 勝彦（副校長）
浅沼 卓雄（事務長）、蒲生 秀麿（経営企画課主任）
野崎 安衣（経営企画課） 以上10名

4 内 容（議事録）【司会：蒲生】

※最初に出席者全員の自己紹介

（1）学校概況説明

【鈴木副校長】 『学校概況について』

※学校案内を参照しながらの説明

教育目標（学校案内の育てたい生徒像）を実現するための手立てとして「文武不岐」をかかげ、学習活動に取り組んでいる。各種行事等を通じて、自主性に富んだ生徒を育てたい。また、アウトプットすることを前提に知識をインプットする参加型授業に取り組んでいる。さらにSRH事業に取り組んでおり、ディベートや課題研究、三陸実習を実施している。これらを通じて、生徒には考える力、対話する力、探求する力をつけさせたい。

【菊池副校長】 『平成30年度岩手県高等学校総合体育大会の結果について』

運動部、文化部がそれぞれ頑張っている。高総体東北大会出場者のうち、前田桃華（3年）さんが走幅跳で1位となりインターハイ出場が決まっている。併せて、全国高文祭では放送・文芸・自然科学の3部門にエントリーし活躍が期待されている。

（2）意見交換

【評議員】

- ・参加型授業の具体的取り組み例と、参加型授業の実践のための教員向けの研修はどのように実施しているのか。

【鈴木副校長】

- ・年度初めにリーフレットを使って教員向けに研修をし、50分間の授業に生徒が主体的、能動的に取り組むために3つのポイントを実践するようお願いをしている。
- ・職員室は学年毎に同じ教科の教員が近い席になるように配置されている。
- ・自分の考えを持った後に、それを共有したり発表したりする方法を研究している先生も多い。

【中島校長】

- ・参加型授業については小学校の方が先行していると思う。OJTとして、年2回の課題シートを使っている面談を行ったり、授業公開週間には互見授業も行っている。昨年度、公開週間には60校、

150人が来校した。

- ・授業アンケートを行い、副校長が結果を分析して各教員との面談を行っている。また、良い授業や外部に研修に行った成果を通信にして配布し、全職員で共有している。

【評議委員】

- ・小学校では評価のフィードバックも行っているので参考になる。参加型授業を行うことで変化は見られたか？

【鈴木副校長】

- ・生徒はアウトプット前提で話を聞いているので、自分の考えを持てるようになってきている。また、他人の意見を聞くことで、自分の気付かなかったところに気付けるようになってきたようだ。

【評議委員】

- ・全ての授業が参加型というわけではないと思われるが、現状はどうか。

【鈴木副校長】

- ・ほぼすべての授業で実践している。参加型授業は概念形成の場面でも向いていると考えている。友達と対話することで、自分が気付けていなかった部分を発見できることもある。教えてもらったことを教える立場になることでの学びもある。

【評議委員】

- ・伝える力を養成するために教員も生徒も努力しているという解釈で良いか。かつて、私が大学で教えていた際は、本当に伝えたいことを伝えたいように受け取ってもらえないことが多々あった。

【鈴木副校長】

- ・対話を通して気付く場面は増えていると思う。

【評議委員】

- ・「こういう言い方をしたらこうとられる」という先生方の学びにもなっているのだと思う。

【評議委員】

- ・昨年度、高3の娘が部活動終了後から体育祭を経て気持ちを切り替えて受験勉強にシフトできたのはすごくありがたかった。今日の授業参観でも3年生の落ち着きは素晴らしかった。また、本校を卒業した娘が進学先の講義の中で行われたディベート研修で、同級生等から大変褒められたようである。これも三高のおかげである。
- ・昨年度の高3が取り組んだ卒業論文は、大学の推薦入試などで実際に活用したのか。自分の娘には大変良い取り組みであった。卒論への取り組みは学力や大学入試結果に影響があったのか。

【中島校長】

- ・娘さんはどのような卒論に取り組んだのか。

【評議委員】

- ・歯学部志望だったので、法死学について。実際に歯科医である父とともに防災訓練に行き、検死に立ち合わせてもらったりもした。

【蒲生主任】

- ・高校では成果となると進学実績が問われることが多いが、それと卒業論文の取り組みが直接関係しない面も多い。第一志望を貫く生徒が多ければ合格者数は減少する傾向にある。

【鈴木副校長】

- ・昔は入れる大学に行かせたが、今は入りたい大学、やりたい仕事を貫くようになってきている。

【評議委員】

- ・参加型授業は素晴らしい取り組みであると思う。(自分の頃はおそらく違かった(4 5回生。))
働いている中で、インプットは得意でもアウトプットは苦手な若者が多いと感じており、このような授業を受けた三高生は頼もしいと感じる。
- ・生徒たちは「参加型授業を受けている」という自覚はあるのか。また、アウトプットが苦手な生徒へのフォローはどうしているのか。

【鈴木副校長】

- ・中学生向け学校説明会で宣伝しているので、新入生は三高が参加型授業に取り組んでいることを理解して入学してきている。

【蒲生主任】

- ・赴任当初、話し合いなどに参加できない生徒がいるのではないかと心配したが、三高生はみんなが参加できている。

【評議委員】

- ・インプットしたものをアウトプットする過程を評価するのは難しいのではないかと？

【鈴木副校長】

- ・観点別評価を行っているので、話し合いをしている場面などいろんな面をみて評価するようにしている。

【評議委員】

- ・今の三高生の進路希望はどうなっているのか。
- ・私の同級生を見てみると公務員や銀行員が多いようだ。私のように商売をしたいという希望をもつ生徒はいるのか。

【鈴木副校長】

- ・昨年の10月の緑丘セミナーでは起業家を講師とした。受講後には「自分も起業したい」と考える生徒が何人かいたようだ。

【鈴木副校長】

- ・登下校の様子で気になることはあるか。

【評議委員】

- ・三高生は何時頃に登校しているのか。

【鈴木副校長】

- ・校舎は6時半に開錠するので早い生徒は早い。野球部は7時頃からバッティング練習をしているし、図書室で朝に勉強する生徒もいる。

【中島校長】

- ・今年度は約500人が自転車通学をしている。

【評議委員】

- ・昨年度は自転車での事故も多かったが、最近はどうか。

【鈴木副校長】

- ・自分で転んでという事故があった。一年生が多い。

【蒲生主任】

- ・昔は近隣の中学校出身者が多かったが、最近は遠方の中学校出身でバス通学する生徒も増えている。
約70の中学校から進学してきている。

【中島校長】

- ・冬は自転車通学は禁止になっている。加害者にもなり得るので、注意して登校するように指導はしている。